

# ふんね

やまざと

VOL.56

[12月定例議会号]

令和2年2月15日

題字揮毫者: 大里耕守氏



「南関町女性消防隊」のみなさん 『生の声を聴く』コーナー(14頁)に登場

## 南関町女性消防隊

■会員数：10名

■主な活動：大人向けや子供向けに火の用心、防災の啓発活動がメイン。

幼少期からの防災活動に力を入れて、図書館での消防お話し会を年2回開催。南関分署に協力いただいて、講話のあと消防車・救急車に乗れたりするので子どもたちには好評。小学校の放課後子ども教室でお話し会も開催しています。

なんかんのギカイ

南関町議会の内容を分かりやすくお伝えします。

この議案で討議されました。

1 〈議案第68号〉令和元年度南関町一般会計補正予算（第5号）について

**質疑** 多面的機能交付金の不正に対して、役場側のチェック体制不備はなかったのか？

**（中村）** 交付金の返済金はすでに肥猪保全隊から626万円振込済との報告があったので、補正予算計上は問題ないと思う。ただ、これだけの大きな問題を引き起こしたことで、南関町のイメージダウンになった。全員協議会では「今回の事件は全て個人で行われたもの」との報告があった。5年間も不正を見抜けなかった町側のチェック体制には問題なかったのか？今後の対策でチェック体制の見直しは？

**（経済課長）** 再発防止策は3点。1点目は、毎年広域組織の総会で適正な交付金執行にかかわる説明をし、構成員全員に周知徹底する。2点目は、広域組織から町へ提出された書類のチェック体制を強化する。3点目は、下部組織から広域組織にあがってくる時点の書類についても町としての確認チェックを強化する。

**（中村）** 再発防止策は、書類チェックの強化が主になっているが、これまでも書類だけのチェックで見つからなかったのに、書類だけのチェックで十分と考えるのか？

**（経済課長）** 現地の確認は、毎年1回全農地をいまでも実施している。

〈全員協議会での議論〉

- 11/25全員協議会にて、調査結果が「一団体である肥猪保全隊で平成25年から平成29年度までの5年間にわたり、本事業交付金を必要以上に受給し、また目的外に支出していた」と報告された。不適切支出額は626万円で、国（1/2額）、県（1/4額）へ返還が必要なので補正予算計上したいとの提案があった。それに対し議会として、①返還計画書をとること②不適切支出の明細を提示して欲しいと依頼した。
- 12/10全員協議会にて、①については12/5に返還金全額が町に振込まれたのを確認。②不適切支出の明細は提示されたが、説明の後に回収された。



## 要望書・陳情書・請願書の取り扱い

陳情  
第2号

米田地域の道路改良工事等の早期実施を求める陳情

継続審査

➔ 工事の実施状況を見守り早期に工事完了を進める為。（総務産業常任委員会）

町長提出議案・・・15件

議員提出議案・・・0件

## 質疑なし全会一致で、可決された議案です。

※全ての議案は、事前の常任委員会・全員協議会で質疑・議論を経て、議会での議決となっています。

一般職員の給与に関する条例	地方公務員法第24条の趣旨に添い、給与を適正なものにするため〈議案第65号〉	全会一致 可決
成年被後見人等の権利の制限に係る措置	措置の適正化等を図るための関係法律の整備に関する法律の施行に伴い、関係条例の適正なものにするため〈議案第66号〉	全会一致 可決
災害弔慰金の支給等に関する条例	関する法律及び災害弔慰金の支給等に関する法律施行令の改正に伴い、条例の一部を改正する必要があるため〈議案第67号〉	全会一致 可決
令和元年度、特別会計補正予算	国民健康保険特別会計補正予算(第2号)〈議案第69号〉 公共下水道事業特別会計補正予算(第3号)〈議案第70号〉 介護保険事業特別会計補正予算(第3号)〈議案第71号〉 浄化槽整備推進事業特別会計補正予算(第2号)〈議案第72号〉	全会一致 可決
町道の路線廃止、認定	路線番号60、高久野3号線の一部を圃場整備に伴い、廃止〈議案第73号〉 認定〈議案第74号〉	全会一致 可決
町道の路線廃止、認定	路線番号203、草村・高久野線の一部を圃場整備に伴い、廃止〈議案第75号〉 認定〈議案第76号〉	全会一致 可決
熊本市町村総合事務組合の共同処理する事務	一部事務組合の共同処理する事務を変更し、規約を変更しようとするため〈議案第77号〉	全会一致 可決
教育委員会委員の任命	伊藤洋治氏が任期満了のため。再任に同意。〈議案第78号〉	全会一致 同意
南関町長及び副町長の給料の減額	令和2年1月1日から1月31日の給与を100分の10を乗じた額を減じる。〈議案第79号〉	全会一致 可決

### 議員の辞職について

酒見 喬議員から12月6日付けで辞職願が提出されました。  
議長がこれを許可し、同日付けで辞職されました。

辞職に伴う委員会等の構成は、文教厚生常任委員会の委員が5名へと変更になりました。



1. 愛媛県伊予郡砥部町役場 介護福祉課  
「介護保険・高齢者福祉の取り組みについて」

砥部町は愛媛県のほぼ中央に位置しており、人口21,271人（H30.4.1現在）で松山市のベッドタウンでありながら、江戸時代から続く素朴でアートな焼き物の里という二つの顔を持つ町である。高齢化率こそ30.5%と南関町より低い数字にあるが、やはり少子高齢化の波が迫ってくる中、主な取り組みを伺った。

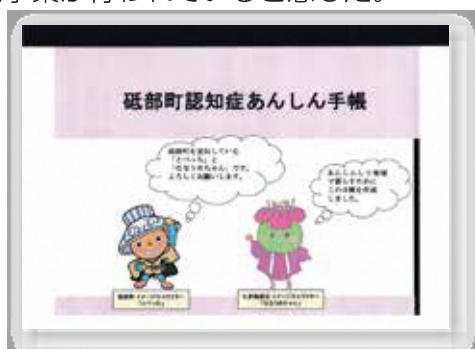
**介護給付適正化事業の推進**・・・認定調査の内容一件につき二人でチェックを行い正確性の維持向上を図り、またケアプラン点検により過剰なサービス防止に努められていた。

**高齢者の方が安心して住み慣れた地域で暮らせるための活動**・・・栄養教室やストレッチ教室、ウォーキング大会等の健康教室に対する取り組みや、独居高齢者ふれあい訪問事業や生活状況の確認事業、または見守り訪問等、行われている。

**認知症予防**・・・季節を感じ、音楽を楽しみ、心に刺激を与える「こころワクワク」。有酸素運動、踊り、ダンスなどで体に刺激を与える「からだイキイキ」。脳トレ、俳句、クイズのように、脳に刺激を与える「あたまスッキリ」。など、的を得た具体的な取り組みも行われている。

町民の方に対しても、認知症という病気を正しく理解していただくことにより、高齢者の方も住み慣れた地域で、安心して生活出来るよう「**認知症あんしん手帳**」を発行している。また徘徊者高齢者家族支援事業としては、位置検索できる小型端末の貸し出しも行われている。

高齢者本人だけでなく、その家族にも十分行き届いた事業が行われていると感じた。



2. 愛媛県松山市役所 介護保険課  
「介護保険事業・健康づくり支援事業について」

松山市は愛媛県の中央に位置し、人口509,251人（H31.4.1現在）で生産人口の多さから、高齢化率は現在27.3%と低い数字ではあるが、やはりこの数字も上昇傾向にある中、今後に向けた事業や主な活動を伺った。

**サービス提供者としての質の向上**・・・市が中心となり市内全域のサービス事業者に対し、介護保険における国からの情報提供や実務説明を行なわせることにより向上を図っている。

**地域包括ケアシステムの構築**・・・地域支援事業として「医療・介護・予防・住まい・生活支援」の五つの要素が切れ目なく一体的に提供されるを目指している。介護予防から始まり、日常生活支援、認知症支援事業、権利擁護推進事業、介護給付適正化事業、更には、それらの活動を支える任意事業と幅広く活動されている。

今回の視察研修では、南関町の約2倍の砥部町、さらに大きい松山市の2か所を訪問したが、双方とも今後の福祉政策において様々な具体的な取り組みがなされていた。出来るところから南関町に取り入れて、更なる福祉の充実を提案していきたい。





## 1. アグロ・イノベーション2019

東京ビッグサイト（有明・東京国際展示場）で行われていたアグロ・イノベーション2019は、農作物の生産、収穫、選果、加工、包装、販売における課題解決の場として様々な業界・業種を迎え、今まで以上に農業界の活性化に役立つ展示会を目指していた。

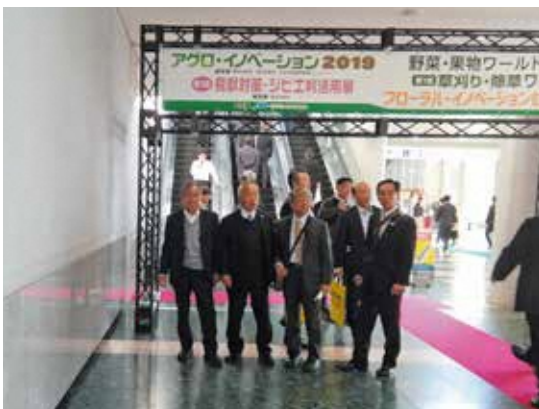
■アグロ・イノベーションでのブース・・・出展者は40団体でこれからの農業を変えるであろう**スマート農業機械・ドローン**などが展示してあった。

■野菜・果物ワールドのブース・・・35団体の出展があり、熊本からも1社出展があった。

■草刈り・除草ワールドのブース・・・25団体の出展があり**自然に優しい除草剤**などが出展されていた。

■アグリビジネス創出フェアのブース・・・農業・林業・水産・畜産・食品・エネルギー環境・総合といった分野で、企業・大学などの最新の研究・技術など紹介ゾーンとなっていた。

■「鳥獣対策・ジビエ利活用展」・・・箱罌・くくり罌の実演、罌にくくりつけるセンサー、ジビエの解体場の模型、軽トラックの運搬車、ジビエの料理など37団体が出展してあった。非常に興味あるブースだった。



## 2. 千葉県佐倉市のユーカリが丘

ユーカリが丘は、**民間企業によるコンパクトシティ**という事で、開発者である山万株式会社より説明をうけた。

ユーカリが丘の歩みという事で、「自然と都市機能が調和した21世紀の新・環境都市」というテーマのもと昭和46年に開発企画に着手され総開発面積約245ha、総計画戸数約8,400戸、総計画人口約

30,000人を目標とされ昭和55年から入居が始まった。

京成電鉄ユーカリが丘駅が開業したり、ユーカリが丘内に電動を走らせたり、保育園、小学校、中学校、病院、子育て支援センターなど数えきれないほど入居者が住みやすい安全安心な街づくりをされていた。



我が町のコンパクトシティにはすぐには取り入れないと思うが、長い年月をかけて少しずつ住民の皆さんの住みやすい環境整備に取り組みたいと思う視察になった。

## 3. 豊洲市場

築地市場が昭和10年から80年以上経過しており、老朽化、過密化、品質・衛生管理上の問題から解体が決まり、平成16年に豊洲新市場基準計画が策定され紆余曲折があり2019年10月14日に完成し50年先まで見据えた首都圏の市場として開業した。

一番見学者が多い水産仲卸売場や青果棟など見学コースを1周した。競りの風景は見学できなかったが、出来たばかりなので、新しく想像以上に広い市場だった。





「待ったなし!! 大胆刷新の真剣討議  
～持続可能な議会広報紙を目指して～」

熊本日日新聞社NIE専門委員・熊本大学客員教授の越地 真一郎氏による講義では、各町村の議会だよりは、全体的に、まじめすぎる、大胆に捨てることも、大胆に取り入れることも必要と指摘された。

具体的な刷新への突破口として、広報委員会の権限を強化する、企画編集に第三者の視線を入れる、どっきり注目されるような企画へチャレンジしてみる、例えば「子ども向け議会だより特別号発行」は、子どもに伝わりやすく作ることが見直しのきっかけにつながるなどのヒントもいただいた。

続いて、出席している町村別に各議会だよりに対して、講師と出席者により直接クリニックがあった。南関町議会だより「山郷」54号に対しては、

- 全体がカラーで横書きに統一されているのが読みやすい。
- 議員の名前が呼び捨てになっているが〇〇議員

の方が優しく感じる。

- 一般質問の議員名に所属委員会が入っている例は少ない。
  - 表紙の集合写真と「生の声を聴く」と連動しているのはよい。
  - 一般質問コーナーでは質問と答弁の色分けが見やすい、「まとめ」として要約するのは興味を引く。
  - 「生の声を聴く」は行政に対してや投票率の設問もあり単なる団体紹介で終わっていないのがいい。
- 等々、良い評価された点と改善すべき点を具体的に指摘されたので、今後の誌面作りすぐに反映できる、有意義な研修会だった。



視察  
受入



日時	視察者	受入れ委員会	視察内容
10月31日(木)	鹿児島県日置市議会 広報編集委員会	広報常任委員会	議会広報誌の企画・構成・編集及び特集記事の取組みについて

日置市は隣接する鹿児島市の西側に位置し、鹿児島市のベッドタウンとしても発展している。2005年平成の大合併で、日置郡の伊集院町、東市来町、日吉町、吹上町が新設合併し市制施行、日置市が発足。

人口48,288人、議員数22人、議会だより発行部数22,500部と、南関町の発行部数3,900部と規模の差はあるが、制作時の苦労は似ている部分もあり、意見交換する中で受入れ側にとっても有意義な時間となった。

主な質疑内容

印刷会社が9社指名入札による契約制のため、制作における意思疎通に苦労されていた。加えて委員の任期が2年と短く、質の向上への取組みが浅くなってしまおうとのことであった。

南関町の場合、随意契約の印刷会社と意思疎通ができた中での進行で、スムーズに進みやすい。

1期4年間の担当で、初めて取り組む号の時に、編集方針をしっかりと議論してスタートしたのでブレなく進めている。「町民目線づくり、町民に身近な存在になる」目標を元に具体的内容を説明した。





「今の学校教育がどのように行われているのか。」  
また「児童の様子は？」等の観点から、11月11  
日に二小と一小、14日に四小と三小を訪問した。  
各小学校で特徴的だったのは・・・

■ **第一小学校**…業務改善加速事業の拠点校とし  
て、ICTを活用した授業改善に努められている。  
電子黒板のみならずタブレット端末も使われてお  
り、参観した授業では、各自タブレットを使用し  
た授業まで行われていた。この事は、今問題になっ  
ている先生たちの働き方改革にも繋がるものであ  
り、何より児童達も手慣れた感じで、楽しく使い  
こなしていた。

■ **第二小学校**…町内駅伝大会などを中心にスポー  
ツに励んでいる。他の小学校にも言えることだが、  
二小においてもその児童の素直で誠実な取り組み  
により、体力向上優良校として、県より2年連続  
で表彰を受けている。  
また、毎年卒業式で伝統的に引き継がれている、

みどりの少年団活動においては、クリーン活動を  
中心に地域貢献活動にも従事している。

■ **第三小学校**…小原地区・肥猪地区で行われてい  
る神楽を中心に、様々な伝統芸能に触れ合いなが  
ら、その素晴らしさに触れ、豊かな心の育成に努  
められている。また、コミュニティー・スクールの  
一環として、地域住民の生命を守るため、地元  
区長達と合同で、防災マップを使った防災会議や、  
保護者・地域の方と一緒に収穫祭を行うなど、学  
校応援団を柱に非常に地域との密着を感じた。

■ **第四小学校**…「四小人権宣言」を掲げ、南町民  
センターでは、ほぼ全児童が放課後の時間、先生  
達の生き様や、それぞれの家族（祖父・祖母・父・  
母等）の生き方を学び、そのうえで地域や家族の  
思いやりを感じ、夏のキャンプやクリスマスなど  
一年の行事の中から自分を振り返り、自分自身を  
誇りに思うことから始まる、人権学習に力を注  
いでいる。



### ■ 研究課題 確かな学力の向上を目指した算数科学習

四小で1年・5年・たけんこ学級（6年）の3ク  
ラスが対象となり、算数を中心とした研究発表会  
が行われた。

四小の教育目標である「意欲的に学び、自立に向  
かう子どもの育成」の名の通り、先生の質問にも  
進んで手を挙げ、またグループ学習においては、  
しっかり話し合いも出来ており、特にたけんこ学  
級では、児童に配慮しICTを使った遠隔視聴が行  
われていて、非常に感心させられるものだった。

研究発表会についてはどこの学校でも同じだと思  
うが、厳しい勤務時間の中、先生方も大変だった  
と思う。

学校訪問と研究発表会を通じて感じたことは、大  
人達の急な訪問にも臆することなく自然体で頼も

しく、そのうえできちんと挨拶も出来ていて、日  
頃から先生達の教育・指導が行き届いているよう  
に思えた。

その中で、児童数減少のおり小学校の合併も聞こ  
える中、今の人数だからこそ出来る教育もあると  
いう事も、改めて感じた。どちらが良いか判りま  
せんが、地域の伝統・文化に触れ、現在の環境に  
あわせた素晴らしい教育がなされていると思っ  
た。児童の皆さんも今のまま素直でたくましく育  
ち、これからの南関町を担ってほしいと思う。





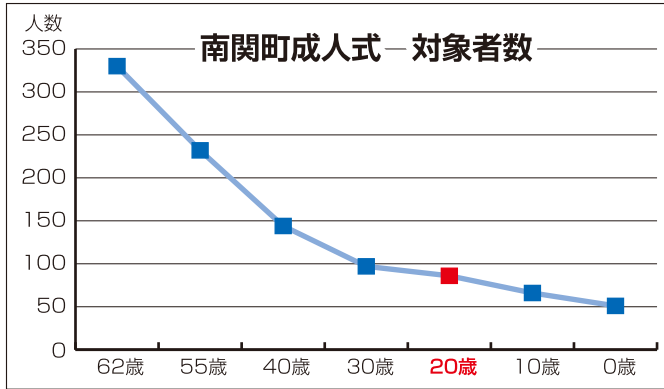
# 比べてみました!!

## 成人式 今昔

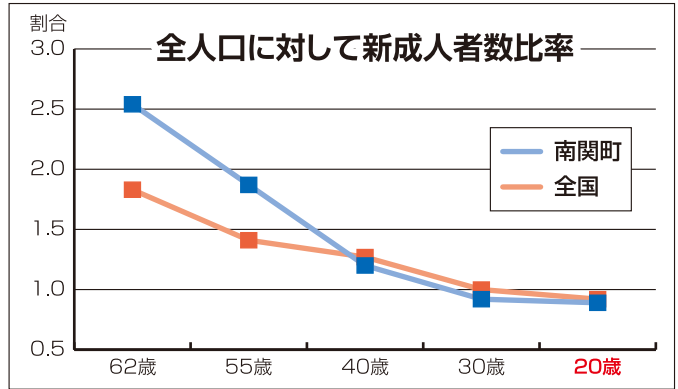
人口減少が進む中、成人式に参加する人数も少なくなっています。今回の「比べてみました!!」では、成人式対象者数の変化と、成人式内容の変化を、10歳毎に調べてみました。

### ■成人式対象人数の移り変わり

今年90歳になられる方達の成人式は、対象人数何人だったか、同様に10歳毎に人数を調べてみました。しかし結果は、平成以降のデータしか残ってなく、昭和の数字が部分的にしか掴めず、62歳の人からの数字です。



令和2年1月時点の年齢(10歳と0歳は、予測人数)



現在30歳までの世代(2010年・平成22年)まで、新成人の人数が急降下しているのが、分かります。全人口に対する比率においても、全国比率より南関町の比率が大きく低下しています。

### ■成人式の内容の移り変わり

10年ごとにどんな内容の成人式だったのかを、各世代の方達に聞いてみました。

まず共通して返ってくるのが、「いや～、たしか・・・おぼえとらん」

皆さんの話をまとめて、歴史を振り返ってみました。



始まり・・・昭和23年に「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いはげます」祝日として、1月15日が定められました。今年92歳になられる方達が満20歳になる年でした。南関町での最初の年は調べきれませんでした。

○80代～90代の方に聞く・・・「普通の服で式に出て、証書と記念品をもらっただけ」

○70代(昭和40年頃)・・・「晴着を着る人が増えてきたが、着れない人のことを考慮してか「平服で参加してください」と案内ハガキに書いてあった」「自分の時は、式のあとに全員で大津山に登った。だから晴着きていたら登れなかった」(一生に一度の成人式で精一杯の晴着でとの流れに批判の背景に、昭和40年代に盛り上がった「新生活運動」の取組みがありました。「全国民が物心両面で国民生活の改善、向上を図ろう」と呼びかけ、冠婚葬祭を簡素化するなど、生活の合理化や節約を呼びかけた国民運動)各自治体は当時、普段着で気軽に参加できる成人式を目指していました。南関町では、大津山登山と組合わせた企画をしたのでしょ。

○60代～50代(昭和50年～60年頃)・・・その後も大津山登山が続いたようです。そして「青年団からせんざいの炊き出して祝ってもらった」「終了後は、同窓会がセットになっていて参加した」

(新成人の対象年齢が「数え年」→「満年齢」→「学齢」と移って行き、成人式が同級生との待ち合わせの場所となり、同窓会が併催されるようになった)

○40代～30代(平成以降)・・・晴着自粛運動とは逆に、新成人の装いは年々豪華になり、女性の和服も袖の長い中振袖が主流となり、和服姿の男性も見かけるようになってきました。南関町の大津山登山がいつから無くなったのか定かではありませんが、「一度しかない晴れ姿を!」との声のでたのか、装い豪華傾向の式へなっていくたようです。「その後は皆で、うから館で同窓会をした」中学卒業して初めての人もいる5年目の再会、初めての同窓会、そんな楽しみの場との声も聞こえてきました。

2022年4月から成人年齢が18歳に引き下げられます。成人式は18なの20かと議論が出ています。これを機に始まりの意味「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いはげます」祝日として中身の議論も必要でしょう。